

# ALL FAVORITE KITCHENS

## キッチンスタイルを選ぶ

システムとオーダーで分けるキッチン選びはもう古い。多様化しているライフスタイルに合わせ、これからのキッチン選びには新しい視点が必要だ。選択肢が広がっている今、ブランドで選ぶのではなく、適切な選択をすれば理想のキッチンにたどり着けるはず。そのためにもまず大切なのは、イメージを明確にすること。今回は、理想のキッチンを手に入れた実例7軒と共に、“キッチンの新しい選び方”について考えたい。

Photograph : Nacasa & Partners

Case Study  
Horiuchi Residence ..... 082  
スタジオ CY / 堀内 雪

T Residence ..... 094  
MDS一級建築士事務所

Kitchen Style Study ..... 104

### 5 Styles

T Residence / I'm home ..... 122  
A Residence / 横堀建築設計事務所 ..... 128  
I Residence / 井上洋介建築研究所 ..... 134  
N Residence / 橋本健二建築設計事務所 ..... 138  
A Residence / 手嶋保建築事務所 ..... 142

Time of Joy ..... 146

キッチンとダイニングを楽しむ

都内の多摩川沿いに立つ、建築家の堀内 雪さんの自邸兼オフィス1階のキッチン(CH3020mm)。料理カフェを開くことを想定し、業務用コーヒーマシンや製氷機など、本格的な設備を導入している。手前の通路側にはガスをつないだコーヒースタンドのスペースとシンクを配装し、アイランド型カウンター(W3100mm×D965mm×H860mm、960mm)。壁にはガスコンロと手洗い用シンクを配した壁付けカウンター(W3500mm×D650mm×H860mm)と、作業しやすいよう用途別に振り分けた。アイランド型はアルミニウムに100mm幅の黒皮仕上げのスチールを用いて製作。天板にステンレス。カウンターには建材を扱うギャラップで購入した厚さ60mmの無垢一枚板の古材、面材はウォールナット材突き板を選んだ。壁付けカウンターはオーダーキッチンメーカーのモッドに依頼。ステンレスの天板にグレーで塗装した面材と多様な素材を用いながら、ダークなトーンでまとめた。



## 異素材を楽しむオープンな ダイニングキッチン

Horiuchi Residence Tokyo

Architecture : スタジオ CY (サイ) / 堀内 雪

Photographs : Nacása & Partners Text : Kiyo Sato

都内を流れる多摩川沿いの一角。淡いグレーのレッドシダー材と紺のスチールサッシが彩る地上3階建ての建物が、建築家の堀内 雪さんと夫の貴和さんが暮らす自邸兼オフィスだ。のどかで眺望に恵まれたこの土地を気に入り、自ら設計を手掛けて理想の住まいを完成させた。

1階は中庭を中心に、打ち合わせスペースを兼ねたダイニング、キッチン、和室を配したパブリックなスペースとし、2階はミニキッチン併設したリビング兼オフィスと書庫、バスルーム、3階に主寝室をレイアウト。上階へ上がるにつれ、パブリックからプライベートへと切り替わる構成だ。

コンセプトは、住まいのどこにいても敷地南側に広がる緑豊かな河川敷の景色を楽しめること。ロングスパンの開口が可能な鉄骨造を採用して南側全面を大開口とし、北側は床レベルを上げることで中庭越しに河川敷を見渡せる設計だ。1階は土手の緑が間近に迫る一方、2階リビングの幅7.3mに及ぶワイドな開口からは土手の高さにパノラマの風景が広がり、さらに最上階のテラスからは多摩川を一望できる。敷地は南北に長く東西を建物に挟まれているが、プランと開口の工夫により光や風が全体に回り込み、変化する眺望が住まいに奥行きをもたらしている。

エントランス扉を開けると、古いレコードの温かな音色と共に、陽光が差し込む明るいダイニングが迎える。南側に土手の緑、北側に中庭が広がり、壁の一部を外壁と同じレッドシダー材、床をモルタルで仕上げた下足仕様のこの空間は、将来貴和さんがカフェを開くことを想定していること。アンティーク家具やインダストリアルな小物に加え、雪さんが選んだ鮮やかなテキスタイルアート、貴和さんが収集する楽器やレコード、年代物のステレオが並び、二人の個性を物語る。「心地良い雰囲気が好きで、ここで設計のアイデアを練ることも」と雪さん。

このダイニングの奥に続くのが、中庭に面したオープンスタイルのキッチン。南側の眺望を妨げないよう、背板がないオープンシェルフを間仕切り用い、ダイニングとの間に段差を設けて場を分けた。壁の上部は2階の床のレベル差で生じた隙間をガラス張りにしたことで、上下階の

(86頁に続く)

東西を建物に挟まれた立地ながら、中庭を囲むように各室をレイアウトすることで住まい全体に光が回り込み、キッチンに立つと外の景色や住まい全体の様子が伺える。空間のアクセントであるインダストリアルなペンダントライトは、黄緑とゴールドの組み合わせを気に入り、ザ・コンランショップで購入し、天板から高さ850mmに設置。キッチン水栓はシャワーノズルを伸ばせてシンクの清掃が容易なドイツ・GROHEの「3137900J」。カウンターの上に載せた古材は天板から40mm上げて設置し、隙間にコンセントを取り付けた。カウンター下部に配した製氷機の放熱のためその右手はオープンにしてスリットを設けた。右奥は和室とゲストトイレ。



## DATA

所在地：東京都 工事種別：一戸建て 新築 構造と規模：S造 地上3階建て 敷地面積：149.06㎡ 建築面積：74.29㎡ 床面積：1階60.07㎡ 2階58.49㎡ 3階28.61㎡ ガレージ16.24㎡ 合計147.17㎡ キッチン：約16㎡ ダイニング：約23㎡ 家族構成：夫(50代) 妻(50代)

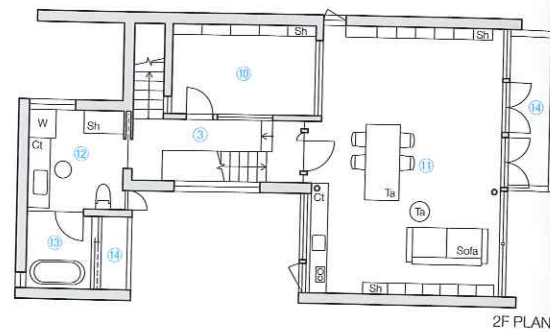
### ◆主な仕上げ材料

床：キッチン/磁器質タイル600角貼り(AFAL-600/アルティス) ダイニング/モルタル防塵塗料塗布 壁：PB112.5下地AEP塗装 一部フッ素塗料塗装 天井：PB19.5下地AED塗装

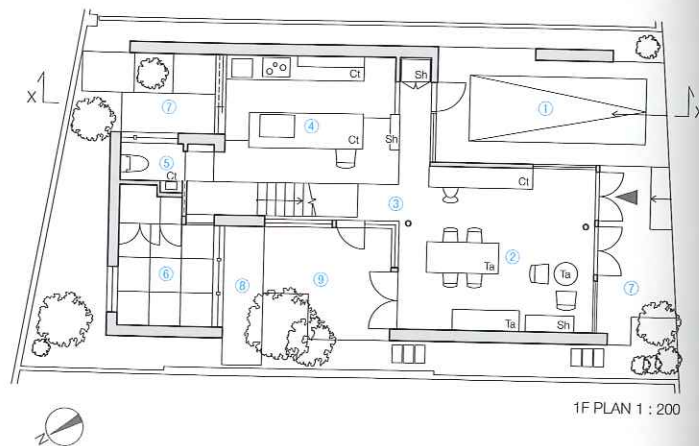
### ◆「家具・機器」仕様リスト

アイランド型造作キッチン(フレーム・スチール黒皮仕上げ+天板・SUS VR仕上げ+バーカウンター・無垢古材(GALLUP)+面材・ウォールナット材突き板+ハンドル(HAFELE)) 壁付けオーダーキッチン(天板・SUS+面材・突き板塗装仕上げ+ハンドル(HAFELE)) 造作SUSシンク ガスコンロ(DW35F2JTKSTE/HARMAN) レンジフード(FEDL-901S/アリアフィーナ) キッチン水栓(3137900J/GROHE) 浄水器(A-103ZC/メイスイ) オープンレンジ(DR514E/東京ガス) 食洗機(G4101 sci/Miele) キッチン/アンティークスツール ペンダントライト(ザ・コンランショップ) ダウンライト(LGB72999/パナソニック) ダイニング/アンティークダイニングテーブル(オコジュ) ダイニングチェア(Aチェア/TOLIX) ペンダントライト(PH2/1/Louis Poulsen) ダウンライト(MD20586/マックスレイ)

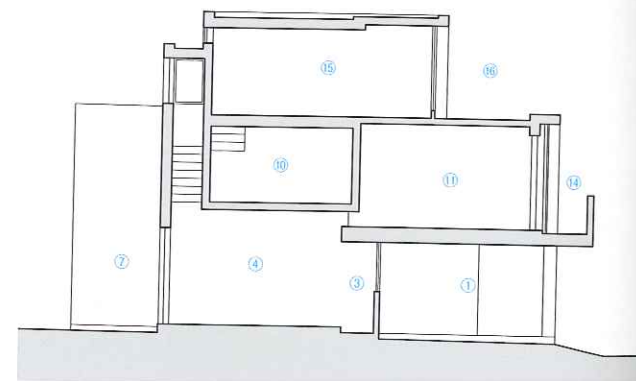
※そのほかの設計データは261頁に掲載



2F PLAN



1F PLAN 1:200

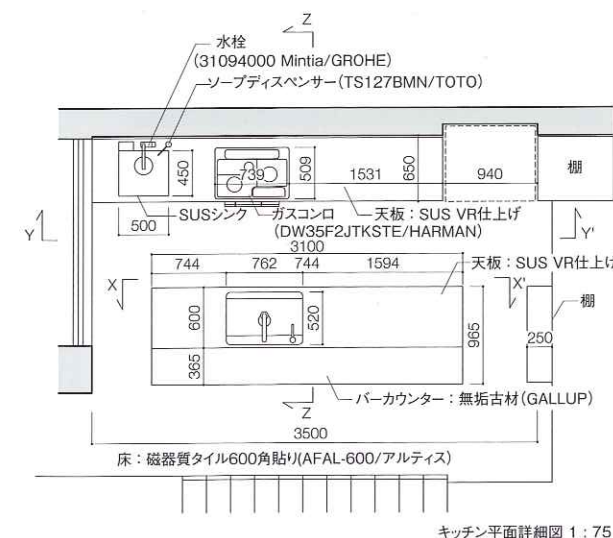


X-X' SECTION 1:200

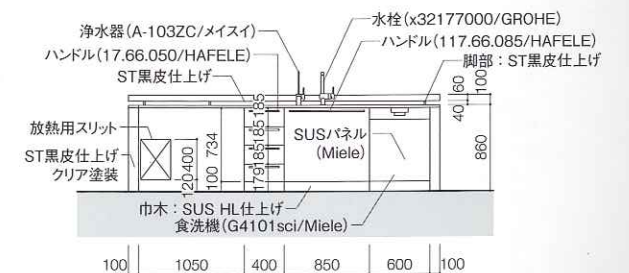
- ①GARAGE
- ②DINING
- ③HALL
- ④KITCHEN
- ⑤TOILET
- ⑥JAPANESE-STYLE ROOM
- ⑦TERRACE
- ⑧DECK
- ⑨COURTYARD
- ⑩STORAGE
- ⑪LIVING (OFFICE)
- ⑫POWDER ROOM
- ⑬BATHROOM
- ⑭BALCONY
- ⑮MASTER BEDROOM
- ⑯ROOF TERRACE



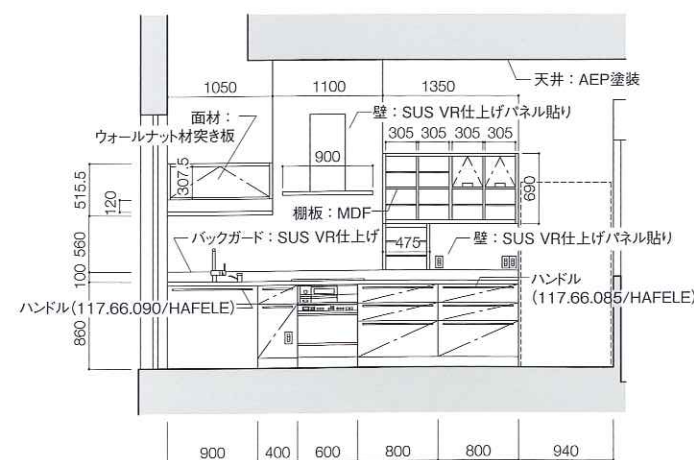
中庭から階段越しに見たキッチン。スチールサッシの開口(W3420mm×H2710mm)の一部は中庭に出られる扉に。階段下に生まれた奥行き900mmのスペースには、オコジュで購入したイギリス製アンティークの子ども用のテーブルとイスをディスプレイ



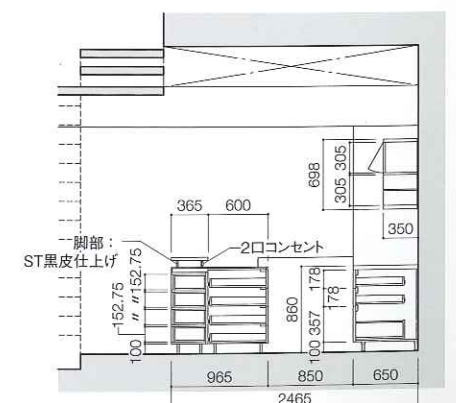
キッチン平面詳細図 1:75



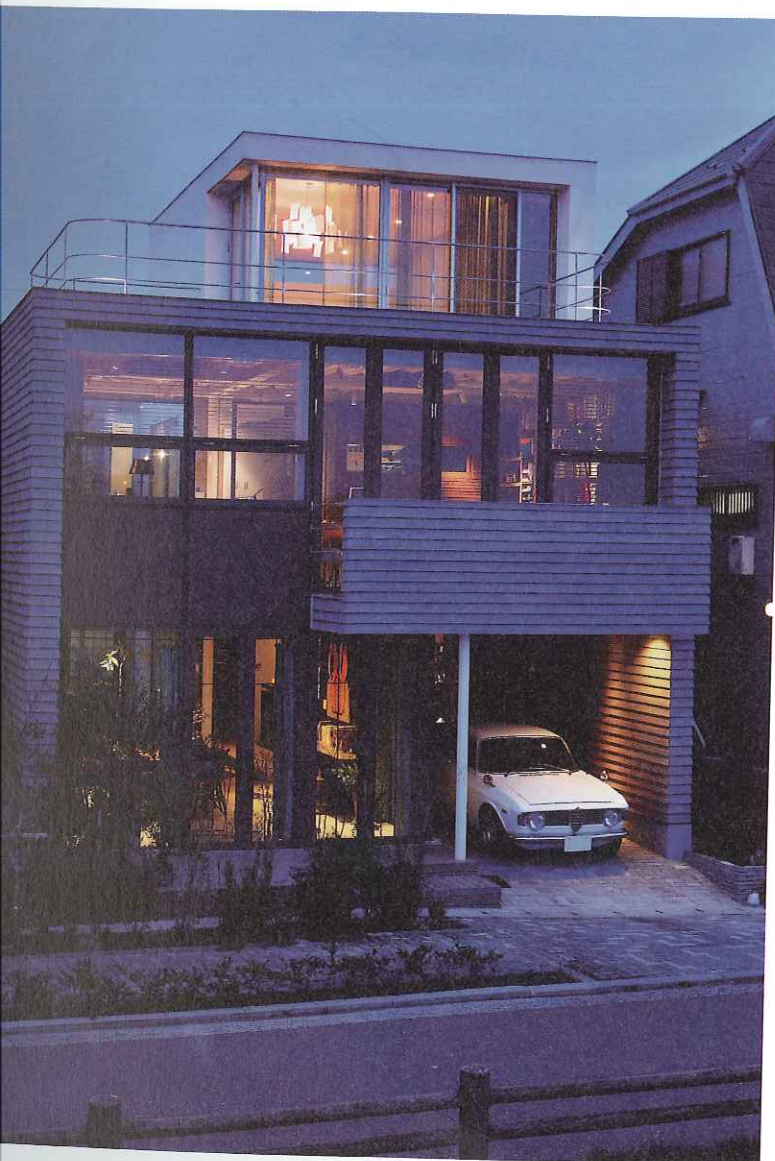
X-X'展開図 1:75



Y-Y'展開図 1:75



Z-Z'展開図 1:75



地上3階建ての建物は、河川敷が広がる南側をガラス張りにするためロングスパンの開口を得られる鉄骨造を採用。レッドシダー材の外壁は白とグレーの2色を塗り重ね、経年変化したかのようなテクスチャを演出した。2階の外壁の一部には、上下階のつながりを強調するためサッシと同色のスチールパネルを貼り、3階のみ白に塗装して建物の存在感を抑えた。アルファ・ロメオの1966年式「ジュリアスプリントGT」を停めたガレージ奥に、キッチンにつながる勝手口がある





1. 子世帯のキッチンを通してリビングを見る。天窗から光が入る正面の壁は最近、妻の好きなブルーグレーに塗り替えた  
2. 子世帯の玄関ホールは中庭側を全面開放。中庭を挟んで左に親世帯の玄関、正面に稽古場が望める 3. 中庭から子世帯玄関ホールと路地のような通路を見る。通路の先に道路 4. 通路の途中にあるシマトネリコ。見上げると両世帯が2階でつながっていることが分かる 5. 北側外観。左の親世帯は左官仕上げ、子世帯はレッドシダーをグレーに塗装

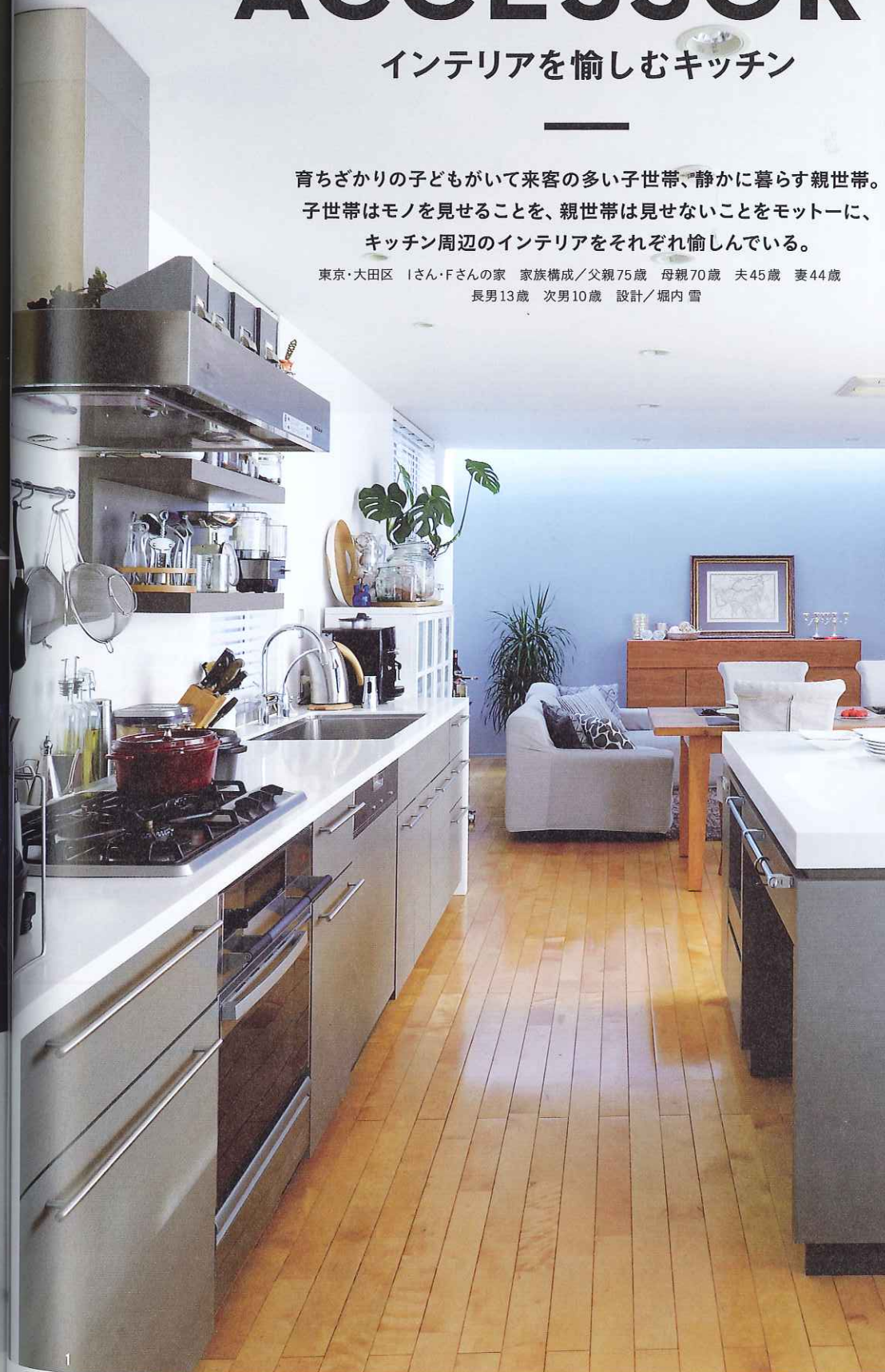
Enjoy!

# INTERIOR & ACCESSORY

インテリアを楽しむキッチン

育ちざかりの子どもがいて来客の多い子世帯、静かに暮らす親世帯。子世帯はモノを見せることを、親世帯は見せないことをモットーに、キッチン周辺のインテリアをそれぞれ愉しんでいる。

東京・大田区 Iさん・Fさんの家 家族構成／父親75歳 母親70歳 夫45歳 妻44歳  
長男13歳 次男10歳 設計／堀内 雪







キッチンの西側に張り出したテラスは母親のキッチンガーデン。ナバナやミニプロッコリー、キノコなども育てている

## DATA

敷地面積 / 185.32㎡ (56.16坪)  
 延床面積 / 252.14㎡ (76.41坪)  
 1階 / 94.81㎡ (28.73坪)  
 2階 / 93.16㎡ (28.23坪)  
 3階 / 64.17㎡ (19.45坪)  
 用途地域 / 第1種中高層住居専用地域  
 建ぺい率 / 60%  
 容積率 / 200%  
 構造 / 木造軸組工法  
 竣工 / 2007年7月

## MATERIAL

[外部仕上げ]  
 屋根 / ガルバリウム鋼板  
 外壁 / レッドシダー + 塗装  
 [内部仕上げ]  
 1階 床 / 檜 (稽古場)、  
       天然石 (子世帯玄関ホール)  
 2階 床 / バインフローリング (子ども室)、  
       ローズウッドフローリング (親世帯LDK)  
       壁・天井 / 塗装  
 3階 床 / カバフローリング  
       壁・天井 / 塗装

## INSTRUMENTS

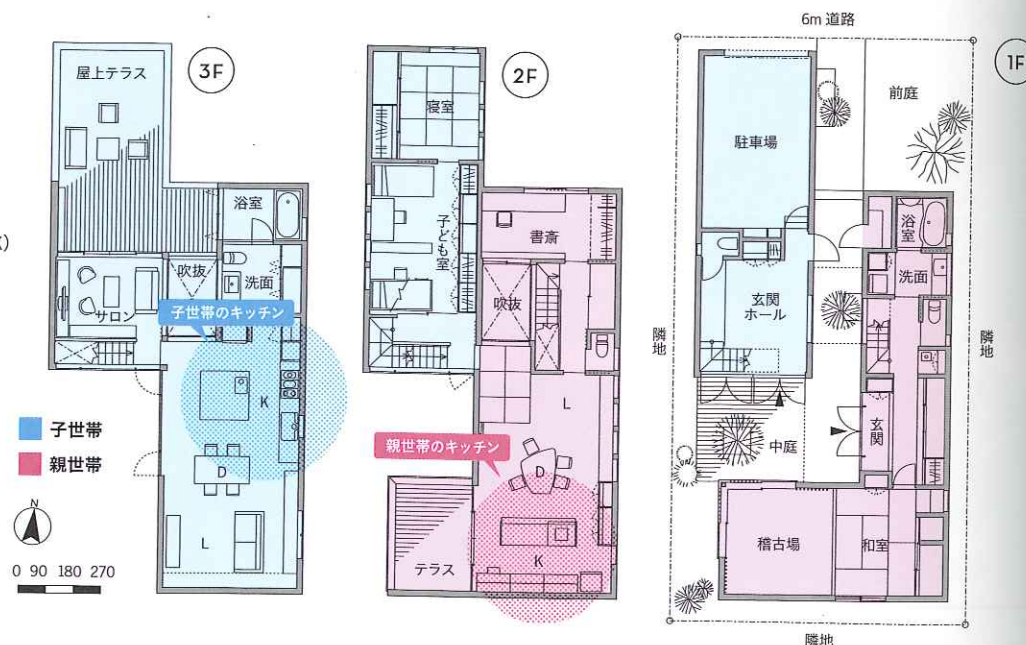
衛生機器 / パナソニック LIXIL (INAX)、TOTO  
 窓・サッシ / LIXIL (トステム)

設計 / 堀内 雪 (スタジオCY)  
 〒201-0016  
 東京都柏江市駒井町3-10-9  
 ☎ 03-5761-5020  
 施工 / 高政工務店  
 ☎ 03-3417-6621



親世帯のLDKは「隠す収納」に徹した白いインテリア。キッチンには手元を隠せる対面式。南と東側の壁はほぼ全面収納

2F  
親世帯の  
キッチン



1. 天然石を敷き詰めた子世帯の玄関ホールは中庭と一体になり、親世帯と共有する場に 2. 玄関ホールには、海外で集めた小物や絵が飾られている。玄関ドアの向こうはデッキの通路 3. 親世帯の玄関の引き戸を開けて中庭を見る。ジャラ材のデッキと特注のスチールサッシが空間を引き締める



4. 親世帯の玄関。稽古場の玄関も兼ねている。廊下の床はローズウッド。右の収納の建具は植物をあしらった唐紙 5. 稽古場と連続する和室の襖の文様は桐、引き手はひょうたん型 6. 稽古場は声が響くように天井・壁は杉板、床は檜を張っている。障子を開けると右に中庭、正面に庭が望める

中庭の東側にあるのが親世帯の玄関だ。両開きのガラス戸を開けると、正面に植物を白く型押しした唐紙を貼った収納建具が目に入り込んでくる。廊下の南側には和室と板の間の稽古場があるので、玄関は稽古場への出入り口も兼ねていることが分かる。父親は話を始めて50年。師範として定年後この家で教えている。稽古場の障子を開けると、北に中庭、西に隣家との間に板塀を設けた庭が見え、板の床に座ると背筋が伸びる。

稽古場のある1階は和モダンLDKは白いインテリア



## ARCHITECT'S PROFILE

## 堀内 雪

1964年生まれ。筑波大学基礎工学類卒業。毛織織建築事務所設計室長を経て独立。2000年スタジオCY (サイ) 設立。主な受賞歴 / 2013住まいの環境デザイン・アワード入賞、'12年モダンリビング大賞特別賞、'08・'09年日本建築家協会優秀建築選、'08年茨城県建築文化賞他。

2階は廊下を挟んで南側はLDK、北側に書斎がある。「片付けがヘタだから、収納を多くしてくださって堀内さんに頼んだんです」と母親。確かにLDKの東と南の壁面は収納棚になっている。そして要望どおり、シンプルで白いモダンなインテリアだ。システムキッチンのトップも側面も白い。キッチン東側の掃き出し窓からはデッキに出られる。デッキに出ると中庭の向こうに子世帯がのぞめる。デッキは3方向が抜けているので日当たりがよく、キッチンガーデンにもなり、洗濯物干場としても重宝している。リビングの吹き抜けに面して坐って家事をする畳コーナーは、子世帯の子ども室とつながり、学校帰りの孫が顔をのぞかせる。

